

生涯学習審議会(令和8年1月21日)でいただいた御意見の第3次流山市子どもの読書活動推進計画素案への反映

対応する議事録のページ	発言者	発言要旨	回答	対応する素案のページ
10p～11p	西岡委員	スポーツも今や作戦の時代になっておりまして、見せ方や勝ち方、記録の出し方というのもすごく数値化されています。情報分析能力が「考える力」に発展していきますので、大谷翔平もイチローも彼らの知識量はものすごい、運動生理学的な面や病理学に関する事を完璧に勉強しています。野球日本代表チームの監督をされた栗山英樹は大学の後輩ですが、以前お会いした際、「机上の勉強を嫌うやつは相手にできない。考えることをしないから人コミュニケーションが取れない。勝手に行動してしまう」と話されていました。三原元巨人監督の著書から、人を見分ける方法として「読むことや勉強することを嫌わない人間」というのを念頭に入れていたようです。スポーツ指導も教育であり、知識を有していなければならない。知識を得るための理解力や読解力は小中学生、それ以前の幼児期の読み聞かせは重要です。そのような視点からすると、スポーツ科学の発展に読書が関係しているのではないかと思います。	・計画に「読書の意義」という項目を新たに設け、以下の内容を記載いたしました。 1)読書が好きな児童・生徒ほど各教科の正答率・スコアが高い傾向(令和7年度学力学習状況調査より) 2)子どもの頃の読書量が多い人は、意識・非認知能力と認知機能が高い傾向(「子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究報告書」国立青少年教育振興機構調査より) 3)読書時間と読み聞かせ頻度が高ければ、語彙力・読解力スコアも高まる傾向(「子どもの語彙力・読解力に関する基礎分析-「子どもの生活と学び」研究プロジェクト「語彙力・読解力調査」より-」東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所編より)	第1章1p
5p	久我委員	資料4の質問に「本を読むことは好きか」というのはありますが、読書の好き嫌いではなく、読書の必要性とか重要性についてはお聞きにならなかったのでしょうか。先日の流山市青少年主張大会で、おおぐろの森中学校の生徒が、スマホに振り回された生活を見直して「自分の人生の主導権は自分で握らないといけない」と主張されて、スマホを開く前に本を開くことから始めていると語っていて、私は大変感心いたしました。同様に読書の必要性に気付いている生徒もいるのではないかと考えての質問です。	・計画に「読書の意義」という項目を新たに設けました。 令和7年度に小・中・高校生に実施したアンケートでは、読書の必要性や重要性について直接尋ねる設問はありませんでしたが、「あなたは、自分と同世代の人々がもっと読書をするためには何が必要だと思いますか」等の質問により、児童・生徒が読書の意義や必要性についてどの程度意識しているかを間接的に把握することが可能と考えます。 ・第3次計画では、子どもの主体性を大切に読書活動の推進に取り組めるよう、新たに、子どもの意見を取り入れる取り組みを実施してまいります。	第1章1p,第2章12p,第4章26,28,30p
11p	土屋会長	今日はそれぞれのお立場からの御意見を伺いましたが、あえて集約すると、本に関わる「インプットとアウトプット」の双方の視点があったかと思います。また、次回、第3次計画の素案提示に向け、イメージを持っておくすると、今期計画の基本方針の指標として示されている6つの指標(①市立図書館における乳幼児対象事業の取組状況、②学校図書館図書標準の達成状況、③読書が好きな児童・生徒の割合、④小学生・中学生・高校生期における読書の状況、⑤団体貸出の利用冊数、⑥子どもの登録者数)を、次期計画策定においてより適切なものに改善していくべく意識しておくことが重要かと思います。さらに、先程出てきたAIの活用など、5年前からの社会的変化を視野に入れた検討に向け、今回の資料で気になる点について、何かご指摘はございますか。		第2章5p指標第4章 目標とする指標 37p,第4章25,26,28,29,31,32,33p
11p	松浦委員	残念ながら私は教育の世界には卒業以来接点がないのですが、青少年主張大会を拜聴させていただいて、私が中学生時代とあまり変わっていないという印象を受けました。 学校図書館の現状をご紹介いただきましたが、図書司書の配置やポップ作成、ビブリオバトルというものは、私が学生の時はなかったものです。私は木の図書館を利用するのですが、話題の作家コーナーやオリンピック開催時の企画コーナー等、学校も図書館も読書推進に努力されていることに感心しました。 先ほど会長からありました次期計画での目標指標は、6つの内、私は②③④あたりがメインかと思っており、手法は多々ありますが、ビブリオバトルを青少年主張大会に組み入れるとか、ポップコンテストといった、本の魅力の再発見のきっかけを作るのもよいのではないかと思います。	・学校では、大規模校への電子書籍の導入により、紙以外の蔵書の充実を図っていますが、こうした取り組みは、紙の本の蔵書数のみが対象となる学校図書館図書標準では測れません。こうした状況もあり、「指標②学校図書館図書標準の達成状況」を指標として使い続けるかどうか、見直す必要があると考えています。 新たに取り入れる指標の候補としては、国の計画でも取り上げられている「不読率(1か月間に1冊も本を読まなかった子どもの割合)」を、子どもの読書の状況を知るためのデータとして採用することを検討しています。 ・学校においてはR-1読書グランプリ等、市立図書館においてはブックリストや本の展示を行うとともに、子どもたちが本の魅力を再発見できるイベントの開催に努めます。	
11p～12p	谷田委員	図書館司書の話が出ましたが、現状として小学校の勤務時間が31.4時間では少ないと思います。私も小学校勤務経験があり、退職後10年以上ボランティアに通うなかで、司書教諭・図書館司書の役割は非常に大きいと思っています。学校図書館だけでなく図書館も変化し、子どもが床に座ったり、寝ころんだりして本を読むスペースがあるなど、心地良く親しみやすい場を提供していると感じています。公民館や図書館のイベントも、年々工夫されたものが増えていると感じます。利根運河交流館のクリスマスイベントでは理科大生による読み聞かせがありましたが、様々な場所・イベントに読書が取り入れられていくとよいと感じました。 自分の教員時代、司書資格を取りましたがクラス運営だけで精一杯で活かすことができませんでした。現行の図書館司書勤務時間では不足であり、拡充が必要と思います。また、学校や子育て施設の蔵数も、現状では格差がみられるのでこれをどう是正していくかというのも課題です。	・司書教諭・図書主任、学校司書が学校図書館の整備や授業への支援等の役割を果たせるような時間の確保に努めます。 ・各種イベントを継続して実施していきます。 ・令和6年には、公立小中学校図書館システム更新により、公立小中学校の蔵書の所在や貸出状況が子どもたち自身でも確認できるようになり、市内の学校間で相互に本の貸し借りが行いやすくなりました。 ・電子書籍を活用し、学校の蔵書冊数の充実に努めていきます。 ・子育て関連施設については、ブックスタート関連事業「おはなししゅっぱつしんこう！」で、図書館司書おすすめの本を各施設に配置していきます。	第2章8p,第4章28,29p
7p	角委員	おおぐろの森小学校では、読書クラブで本を紹介しあったり、流山市のR1グランプリという読書推進活動の時期に合わせて紹介のポップ作りを全校で取り組んだり、貸出数を運動会みたいに競ったりといったことを、図書委員会の子ども発案で進めるようにしています。		
7p～8p	宮本委員	南流山中学校では、かなり読書活動に力を入れており、国語科と連携しビブリオバトルも全校で取り組んでいます。クラス内のグループごとに代表者を決め、おすすめ本のプレゼンで競いクラス代表を決め、さらにクラス間で学年トップを競うといった取り組みを全学年で行っています。ビブリオバトルは本校の特徴でもあります。これからの学校教育は「発信型」ということで広く公開されており、ビブリオバトルも広がりつつあり、北部中学校やおおたかの森中学校でも実施しているのではないかと思います。ビブリオバトル実施にあたり、プレゼン能力向上にも力を入れ、著名な指導者を招き、生徒も職員もプレゼンを学ぶ取り組みを行っています。 とにかく図書館が魅力ある場所でないといけないということで、詳しくは本校のホームページを見ていただければと思うのですが、教職員のおすすめ本や図書館司書が作ったポップ、有名な作家の色紙やサイン本を多数展示しております。漫画をきっかけに本につながっていくということもしており、漫画の蔵書も大量にあります。テーマ別の展示やタイトルの書いていない秘密のシークレットブックの設置、貸出冊数トップ10の表彰、著名な作家の公演を開催など、読書に親しむさまざまな活動をしています。 また、3年生がどうしても読書から離れてしまうというのがあり、3年生の教室が図書室から離れているので、キャスター付きの棚に本を並べて紹介し貸し出せる出張図書館コーナーを設けております。図書館を魅力あるものにしていくことと、本に親しむためプレゼン教育やビブリオバトルなどを通じて、本の魅力を子どもたちに広げていきたいと、国語科中心に取り組んでいるような状況です。	・学校においてはR-1読書グランプリ、市立図書館においてはおすすめの本のブックリストの配布等を行い、子どもたちが読書の楽しさに触れるきっかけを作ってまいります。	第4章25,26,28,31,32p
8p	織田委員	本校でも、生徒によるおすすめ本の紹介や、修学旅行前には旅行先である沖縄関連書籍を集めた図書室でのキャンペーンといった工夫をしています。一方、ペーパーレスが進み、紙の文字資料に触れる機会の減少を感じています。高校生のビブリオバトル実施に際しては、評価基準がプレゼン能力や本の内容ではなく、若者受けする本かどうかになっている傾向がみられる事が課題です。本から受ける感銘や影響をいかに表現するかといった本質的な部分より、選書自体の影響が大きく、審査員の着眼点によって結果が変わります。ビブリオバトルの課題として実際感じている部分です。	高校生のニーズに対応できる読書環境の整備に努め、読書活動を推進してまいります。	第4章25,26,27,28,29,32,33,34p

対応する議事録のページ	発言者	発言要旨	回答	対応する素案のページ
12p	深堀委員	アンケート結果に対する素朴な疑問なのですが、家にある本は読んでいるとの結果がある事からも、読解力の低下というよりは自ら図書館に出向き本を探そうという探求心の低下を感じました。新たな知識を広げていくための取り組みとして、学習現場や図書館、さらに地域との連携といった取り組みができないものかと思いました。	・市立図書館の利用案内を、市内の小学1年生に配布します。 ・市立図書館おすすめの本のリストを、市内小・中学校に配布します。 ・市立図書館において子どもの読書意欲を高めるイベント等を開催するほか、地域で活動する団体やボランティア等と連携して「子ども読書まつり」などの事業に取り組んでまいります。	第4章 25, 26, 31, 34p
12p～13p	久我委員	一体となって活動することで、さらなる読書活動推進が期待できると思います。家庭での読書推進は困難な面もあると思いますので、家庭教育学級等を通じた読書啓発の実施事例もあるので、小規模でもよいから実施できればと感じました。	・家庭と連携した読書推進事業として、読書に関する講座や、市内各所での赤ちゃんおはなし会でのおすすめの本の紹介、本のリストの配布などを実施していきます。	第4章 25,26,27,2 9,30,31,34 p
12p	土屋会長	大学の現場でも、少子化が進むことで競争の機会が減少し、挑戦意欲の低下やお客様化する大学生が増えているとは感じます。計画策定では、子ども自身の時代的变化も視野に入れることも重要ではないでしょうか。	・アンケートなどを通じて子どもの状況の把握に努め、時代に即した読書普及策を検討・実施してまいります。	第4章26, 28,29, 30,32p
5p	久我委員	環境整備を行い読書機会の拡充を図っている事は理解しますが、今回の改定では、さらに子どもの内面まで踏み込めればと考え質問しました。	・第3次計画策定に当たって、令和7年度、子ども個人に対するアンケートを実施いたしました。 ・第3次計画では、子どもの主体性を大切にした読書活動の推進に取り組めるよう、新たに、子どもの意見を取り入れる取り組みを実施してまいります。	第4章26, 28, 29, 30, 32, 34p
10p	若松委員	特別な支援が必要なお子さんの読書のあり方について、視覚障害者向けの音声図書や文字サイズを拡大できるタブレット用書籍といったデジタル化も、本に巡り合う機会の提供に繋がると思います。 また、生成AIが現計画策定時には想像できないぐらい発達・普及しており、学校司書の勤務ではない日にAI司書に聞くと答えてくれるという形で活用できるかもしれません。全てをAI化するのではなく、補助的な役割として次期計画には生成AIの活用検討をと思った次第です。	文字サイズ変更が可能な電子書籍や、耳で読書を楽しむことができるオーディオブック等の受入を進めてまいります。 今後、電算システム更新のタイミング等で、生成AIを含めたICT技術を取り入れることを検討します。	第4章 26,28, 35p
8p	久我委員	私は、元学校関係者ですが、小学校の図書館の保護者に協力してもらい、美化を図った結果、来館者がかなり増加しました、ビブリアバトルは様々な課題があるでしょうが、子どもたちが自分の好きな本を、自分の言葉で語るということは有意義であり読書の普及に繋がるのではないかと考えています。	市立図書館では、職場体験で来館した中学生に好きな本のPOPを作成してもらったり、テーマに対する利用者の投稿を掲示板に貼って図書館のおすすめ本を紹介するイベントを行い、10代の利用者にも多く参加していただきました。今後も、子どもたちが好きな本への思いを自分の言葉で表現するきっかけとなるようなイベントや展示の開催に取り組んでまいります。	第4章 28,32p
9p	角委員	学校図書館司書を市の方で配置していただいて助かっております。おおぐろの森小学校では分類に力を入れていて、低学年から分類について説明し、様々な分野の本を手取る取組みを司書が進めてくれていて、調べ学習の時にも役に立っています。司書による読み聞かせも行っており、現在は週4日ですが、勤務日が増えていけばいいと思っています。		
10p	天農委員	質問16の「自分と同世代がもっと読書をするためには何が必要だと思うか」という質問に対して、「読みたい本がすぐ読める」「自分に合った面白い本がわかる」と回答している子どもが多く、それは身近に本がないとわからないことだと思います。市内の図書館も魅力ある図書館にする努力いただいていると思いますが、子どもたちの通う学校の図書室がそういう場所になればいいと思いますので、図書館司書を拡充いただきたいと思います。	令和8年度から、南流山小、小山小について、予算を確保し、週5日勤務の学校図書館司書を配置しました。今後も、司書教諭・図書主任、学校司書が学校図書館の整備や授業への支援等の役割を果たせるような時間の確保に努めます。	第4章28p
8p～9p	若松委員	先程ポップコンテストの話がありましたが、先月市役所ロビーでR1グランプリの紹介展示があり、中学生のポップ作品を楽しく拝見しました。写真入りで紹介すればさらに活動が周知できると思いました。 アンケートでは、読書に関する子どもたちの声や社会教育・学校教育それぞれの現状把握により、課題の明確化が図られているものと思います。 子どもたちを取り巻く環境は大きく変化していますが、国も、こども基本法を制定し「こどもまんなか社会」を推進する中で、文科省でも子どもの意見を学習指導要領に反映させるといった動きがあるのでしょうか。子どもの意見表明機会の確保は国の方針ですが、読書推進の中で、「子どもの意見」はどういった位置づけなのかと思った次第です。 もう一つ、民間の図書館や図書コーナーについて、今年、北柏の駅前に大規模なまちライブラリーを民間団体が開設すると聞いています。次期計画策定では、民間の活動も視野に入れてはどうかと思います。		
9p	若松委員	子ども基本法ができて「子どもの意見表明を尊重すること」が国の「子ども子育て」の分野では謳われていますが、学校図書館を所管する文部科学省と学校でも子どもの意見の位置付けの整理が必要かと思っています。	・文部科学省でも、子どもたちの思いや願いを今後の学習指導要領の改訂に向けた審議にいかしていくことは重要であるという観点から、令和7年1月～2月に、こども家庭庁が実施している「こども・若者意見反映推進事業(通称:こども若者★いけんぷらす)」の一環として、小学生から高校生を対象に、今後の学校での学びの在り方等について意見を聴取する「いけんひろば」を開催しました。 ・国の第五次子どもの読書活動推進計画においても、「子どもの視点に立った読書活動の推進」が基本方針の一つとして掲げられています。 ・これまで地域との連携はボランティア団体の方々が中心でしたが、今後は幅広く連携先を検討していきたいと考えます。	第4章 31,32p